

NHK 広島

夏の特集番組 記者会見資料

(2022年6月)



「被爆77年」 核・平和関連番組



for the future
CONNECT
コネクト

思いを、つなぐ ～戦後 77 年 “継承” の現場から～ (仮)

7月8日(金) 総合 後7:30~7:55 <広島県・山口県向け>

戦争の記憶を、いかにして次の世代に受け継いでいくか。とりわけ厳しい経営状態にある私設の平和資料館や美術館では、ユニークな取り組みが始まっている。創設者の強い思いと問題意識がこめられたこうした施設で、若者たちが、知識として学ぶだけでなく、“継承の当事者”になろうと向き合い始めているのだ。

強烈なメッセージに触れた若者たちは何を感じ、どんな影響を受けていくのか。戦後 77 年、継承の現場を見つめる。



わたしたちはあきらめない

～若者たちが見た核兵器禁止条約締約国会議～ (仮)

7月22日(金) 総合 後7:30~7:55 <中国地方向け>

ロシアによるウクライナ侵攻で核兵器使用の脅威が高まる中、オーストリア・ウィーンで開催されている核兵器禁止条約の初の締約国会議。ここに参加する広島出身の若者たちは被爆者の壮絶な体験と、核廃絶を願う思いを発信するとともに、世界の若者たちと意見を交わしたいと考えている。

“核なき世界”が大きな岐路に立つ中、若者たちが厳しい現実にとどのように向き合い、どんな可能性を見いだそうとしているのか、密着取材で描く。



Konomi お好みワイド

「被爆77年 ヒロシマ原爆の日」

8月1日（月）～8月6日（土） 総合 <広島県向け>

1日（月）～5日（金） 後6：10～6：59

6日（土） 後5：30～6：59

世界に衝撃を与えた、ロシアによるウクライナ侵攻と核兵器の使用の示唆。国際社会の秩序が大きく脅かされる中、ことし広島は、「被爆77年」の8月6日を迎えようとしている。

「お好みワイドひろしま」では、8月1日（月）からの週、平和と核兵器廃絶を求める被爆者の声、その思いを未来へつなごうとする若者たちの取り組みを、レポートなどで集中的にお伝えする。

また、平和記念式典が行われる8月6日（土）には、コロナ禍の中、3年ぶりに一般の参列者も出席して開かれる式典や、各地で続く祈りの様子、高齢化する被爆者の思い、核兵器をめぐる世界の動き、そして、来年、広島で開かれることが決まった「G7サミット」（主要7か国首脳会議）に向けた展望などを、多角的にお伝えする予定。

G [月-金] 午後6:10～

メインキャスター 松尾 剛 キャスター 石津江里子 前川夏生
気象予報士 岡田良昭 リポーター 水野貴絵

つながる

あしたへ

CONNECT
NHK広島

ねいねのへいね ソング FROM HIROSHIMA

8月4日（木）総合 後7：30～8：15 <中国地方向け>

今年、平和だと思っていた世界は 戦争によって突如破られました。
当たり前な穏やかな日常が一日も早く戻ってくることを願い、アーティストが被爆地・広島に集います。

“平和の大切さ 命の大切さ” を詞とメロディーにのせ、心を込めて届けます。

MC：ハライチ、高橋ひかる

出演：STU48、大竹しのぶ、かりゆし58、コトリンゴ、森山良子
（五十音順）

※7月6日（水） 広島文化学園 HBG ホールで収録





被爆77年ラジオ特集番組

「高橋源一郎の飛ぶ教室 IN 広島」

8月5日（金） ラジオ第1 後8：05～9：55 <全国放送>

「らじるらじる」によるネット同時配信、聴き逃し（1週間）あり

毎週金曜ラジオ第1で放送している「高橋源一郎の飛ぶ教室」を、時間を拡大して広島から全国に向けて生放送する。原爆投下から77年。

「ノーモア・ヒロシマ・ノーモア・ヒバクシャ」を訴えてきた被爆地・ヒロシマだが、世界の核をめぐる状況はその願いからほど遠い。ウクライナへの侵攻でロシアが核兵器の使用をちらつかせるなど、その脅威は一層高まっている。

番組では、尾道市出身の作家・高橋源一郎さんが自ら選んだ戦争をテーマにした本を紹介し、執筆者に話を聞く。また、戦争を知る世代の高齢化によって、より困難になっている「戦争の記憶をどう語り継いでいくのか」をテーマに、高橋源一郎さんがゲストやリスナーと考える。ゲストは社会学者・古市憲寿さん、広島県出身のノンフィクション作家・堀川恵子さん。



古市 憲寿さん



堀川 恵子さん

令和4年 広島平和記念式典

8月6日（土） ●総合 前8：00～（8：50）

●ラジオ第1 前8：00～9：00

「らじるらじる」によるネット同時配信、聴き逃し（1週間）あり

テレビ

被爆から77年、核兵器をめぐる世界情勢が緊迫する中で、ヒロシマは原爆の日を迎える。2月に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻で、核兵器使用の脅威が高まる一方、国内ではアメリカの核兵器を同盟国で共有する“核共有”について議論するべきという声相次いだ。そうした中で、6月には核兵器禁止条約の初めての締結国会議が開かれ、8月1日からはNPT＝核拡散防止条約の再検討会議が開催の予定だが、いずれも今の世界情勢の厳しい現実の前に、どれほど実効性のある進展があるか不透明な状況だ。

“核なき世界”へ、極めて重要な局面で迎える今年の原爆の日、ヒロシマはどんなメッセージを世界に発信していくのか。市長による平和宣言、そして核軍縮を“ライフワーク”とする広島選出の岸田総理大臣の挨拶、子ども代表による「平和への誓い」などの模様を中継するほか、逆境の中でも諦めることなく発信を続ける被爆者、その思いを受け継ぐ若者たちの姿を伝える。担当は小野文恵アナウンサー。



ラジオ

ラジオ平和記念式典中継では、平和記念式典の様子とともに、証言活動に取り組み、核廃絶に向けた取り組みを続ける被爆者、そして、その思いを継承していこうという若者たちの声を伝える。

ゲストは、広島県原爆被害者団体協議会理事長の箕牧智之（みまき・としゆき）さんと、核政策を知りたい広島若者有権者の会（カクワカ）共同代表の田中美穂（たなか・みほ）さん。被爆から77年。この1年間で国際情勢は激変し、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、アメリカの臨界前核実験、相次ぐ北朝鮮の弾道ミサイル発射など、世界は核廃絶に逆行する状況だ。

番組では、核をめぐる世界の今後を展望し、ヒロシマの核廃絶の願いを世界に発信する。核兵器の廃絶を進めていくために、被爆地である広島から世界に向けて何を訴えていくのか。また、被爆者の高齢化が深刻化する中、若者たちは、被爆者の思いをどう継承していくのか。平和宣言や被爆地・広島から選出された岸田総理大臣の挨拶、被爆者の声、若い世代へのインタビューなどを交えて伝えていく。

NHKスペシャル

「原爆が奪った未来 ～8000人の子どもたち“命の記録”（仮）」

8月6日（土） 総合 後10：00～10：49 <全国放送>

いつの時代にも戦争の理不尽な攻撃に巻き込まれ、未来を奪われる子どもたち。77年前、広島でも多くの子どもたちの命が一瞬にして失われた。広島で8月6日その日に亡くなったのは5万人以上と言われているが、中でも死者が突出して多かったのが、12～14歳の子どもたちだった。空襲の延焼を防ぐために密集した建物を取り壊す「建物疎開」という作業に動員されていたからだ。8月6日のその時、40の学校から8000人以上が、炎天下、作業にあっていた。無防備なその頭上に、原子爆弾が炸裂したのだ。

今回、NHKは各学校や、遺族会などに保管されてきた建物疎開に関する膨大な資料を入手、被害の全貌に迫った。そこから見えてきたのは、6000人もの命が奪われた凄惨な被害の実態と、生死を分けたわずかな差、そしてそれがもたらした消えることのない苦悩…さらに、戦後アメリカが行っていた心理調査の詳細も明らかになり、多感な時期に背負ったトラウマによる長期的な影響も浮かび上がってきた。ウクライナ侵攻後、核兵器が使用される不安が世界に広がる今、子どもたち一人一人の“命の記録”から、核兵器の使用が何をもたらすのか、その実相に迫る。



撮影：河崎源次郎 写真提供：広島平和記念資料館





『とうがきの花ことば』～あの日のヒロシマは、今日も続いている。～

8月6日(土) FM 後10:00~10:50 <全国放送>

「らじるらじる」によるネット同時配信、聴き逃し(1週間)あり

【あらすじ】

広島市の高齢者施設で働く江波あかり(32)は、コロナ対策に余念がない。感染を避けようと他人との関係も遮断していた。

ある日、あかりは認知症の入居者・松原佐知子(94)が書いた日記と出会う。そこには77年前、死と隣り合わせの広島を生き抜いた様子が鮮明に綴られていた。

高齢者は死に向かって弱っていくだけ…と思っていたあかり。しかし佐知子には、逆境の中、強く生きた過去があることを知り、自らの生き方も見つめ直す。さらに佐知子には、失踪した母親がいることが分かり…。

コロナ禍の広島と、原爆投下後の広島。二つの世界が交錯しながら“戦争の記憶”が紐解かれることで、現代を生きる若者が戦争体験者の生き方を継承していく物語。

【出演者】

| | | | |
|------|-----------|--------|-------|
| 土村 芳 | 井頭 愛海 | 別府 康子 | 山下 航平 |
| ゆひと | 下迫 幸恵 | 青野 光臣 | 森井 順 |
| 松田 求 | ピーター・コードス | ジョン・クン | |

【作】 藤井香織

#あちこちのすずさん ～終わらない“戦争”（仮）～

8月中旬放送予定 総合 <全国放送>

ウクライナで“戦争”が続いている今、日本の若者たちはこれまでにないほど、戦争を「他人事」ではない身近なこととしてとらえ始めている。

忘れられない食べ物、オシャレ、恋…戦争の時代を懸命に生き抜いた、映画『この世界の片隅に』の主人公・すずさんのような人たちを探して#（ハッシュタグ）でつなげる「#あちこちのすずさん」プロジェクト。

今年の主なテーマは「終わらない“戦争”（仮）」。80年ほど前の日本で、戦争という究極の困難を先人たちはいったいどう生き抜いたのか。その知恵を、現在の世界にどう生かせるのか？

去年に引き続いて、今年もテレビやラジオで特集を放送（詳細は後日発表）。デジタルメディアや地方新聞、公共機関などと連携して輪を広げる取り組みだ。



NHK広島放送局
中国放送
広島テレビ放送
広島ホームテレビ
テレビ新広島

NHK広島・在広民放4局共同企画

「テレビが記録したヒロシマ～NHK・民放番組上映会2022～」の実施について

NHK広島放送局と広島の民放4局はこれまで制作した核・平和関連番組を共同で上映する「テレビが記録したヒロシマ～NHK・民放番組上映会2022～」を3年ぶりに開催します。

この共同企画は、被爆70年(平成27年)から実施し、今回で6回目となります。新型コロナウイルスの感染拡大で、一昨年と昨年は開催できませんでしたが、今年は、核や平和に対する世界的な関心の高まりなども踏まえて開催することになりました。広島平和記念資料館を訪れる来館者に番組をご覧いただく機会を提供するとともに、平和へのメッセージを発信していきます。

1. 名称 「テレビが記録したヒロシマ～NHK・民放番組上映会2022～」
2. 主催 NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島
3. 共催 広島平和記念資料館、広島市、公益財団法人放送番組センター
4. 日時 2022年8月7日(日)～8月10日(水) <4日間>
午前10時～午後6時(終了時間は日によって異なります)
5. 会場 広島平和記念資料館 東館地下1階「メモリアルホール」(312席)
(広島市中区中島町1-2)
6. 内容 各局制作の核・平和関連番組を4日間にわたり、「メモリアルホール」のスクリーンで上映します。
※英語字幕付きの番組の上映も予定しています。
7. 入場方法 無料。入退場は自由です。
(マスク着用など新型コロナ感染防止の対策にご協力をお願いします。
また、感染防止のため入場を制限することがあります)
8. お問い合わせ ○NHK広島放送局 電話：082-504-5112
○中国放送 電話：082-222-1155
○広島テレビ放送 電話：082-207-0400
○広島ホームテレビ 電話：082-221-7113
○テレビ新広島 電話：082-256-2117

放送局別上映リスト

※上映番組は変更することがあります。

| NHK広島 | | |
|--|------------|-------|
| 番組名 | 放送日(西暦) | 時間(分) |
| 特集 原爆の木は語る | 2004/10/31 | 30 |
| ヒロシマ8.6ドラマ ふたりのキャンバス | 2017/8/5 | 43 |
| NHKスペシャル “ヒロシマの声”がきこえますか ～生まれ変わった原爆資料館～ | 2019/8/6 | 49 |

| 中国放送 | | |
|--------------------------|----------|-------|
| 番組名 | 放送日(西暦) | 時間(分) |
| おばあちゃんから私へ ～あの日のヒロシマを辿る～ | 2019/8/4 | 50 |
| おーい、聴こえますか？被爆75年・ヒロシマから | 2020/8/6 | 49 |
| 描く 被爆76年の広島から | 2021/8/6 | 52 |

| 広島テレビ | | |
|-----------------------|-----------|-------|
| 番組名 | 放送日(西暦) | 時間(分) |
| 残してください 被爆ポンプです。 | 2021/8/1 | 25 |
| メアリーが伝えるヒロシマ | 2021/8/15 | 25 |
| あきらめない 被爆者・坪井直 96年の生涯 | 2022/3/13 | 25 |

| 広島ホームテレビ | | |
|--------------------|------------|-------|
| 番組名 | 放送日(西暦) | 時間(分) |
| 私は何者なのか～原爆で孤児となって～ | 2019/12/28 | 52 |
| 戦地へ響け ヒロシマの音色 | 2022/5/31 | 25 |

| テレビ新広島 | | |
|----------------------------------|----------|-------|
| 番組名 | 放送日(西暦) | 時間(分) |
| 原爆ドーム ～その名に遺されたもの～ 【英語字幕あり】 | 2019/8/6 | 52 |
| 誰がための放影研 【英語字幕あり】 | 2020/8/6 | 52 |
| 被爆地にたつ孤児収容所～2千人の父、上栗頼登～ 【英語字幕あり】 | 2021/8/6 | 51 |

※ご覧いただく番組は、当時の取材に基づいて制作された番組です。登場人物の役職や年齢、引用している資料・知見・データ等は、すべて放送当時のものです。あらかじめご了承ください。

※上映番組に登場する方々の人権やプライバシーに関しては十分配慮しておりますが、制作後長い年月を経過した番組もあり、連絡を取れない方もいらっしゃいます。お気づきの点があればお申し出ください。

「防災・減災」 関連番組



みんなで
助かるために、
いま、
できることを

for the future
CONNECT
コネクト
防災さんぽり・スペシャル

7月1日（金）総合 後7：30～7：55 <広島県向け>

あなたが暮らすいつもの街、目を凝らして歩いてみたら災害時に命を守ってくれる意外な防災施設が！

そんな防災スポットを小野文恵アナウンサーが訪ねるシリーズ「防災さんぽり」。

「お好みワイドひろしま」で放送している人気企画を、「コネクト」ではスペシャル版でお届けする。

宮島では景観と防災を両立させる工夫にアッと驚き、福山市では山中にそびえるナゾの石垣に仰天！身近にある“防災の知恵や言い伝え”も大募集中！





西日本豪雨4年 防災特集番組

「新たな犠牲を防ぐために いまできること」

7月1日(金) ラジオ第1 後5:05~5:55 <中国地方向け>

甚大な被害をもたらした西日本豪雨からまもなく4年。中国地方は去年8月にも豪雨に見舞われ、いつどこが被災地になってもおかしくない状況だ。こうした中、西日本豪雨で大きな被害のなかった地域でも、各地で防災の取り組みが始まっている。

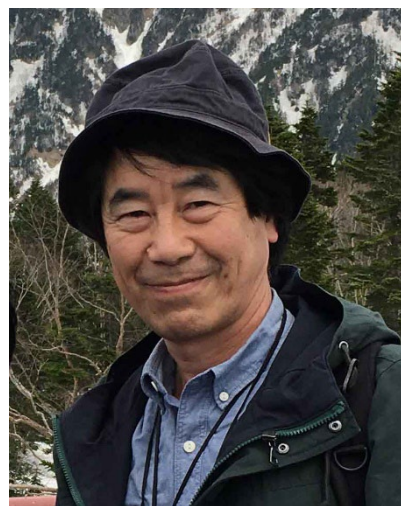
番組では、「避難のハードルを下げるため工夫が凝らされた避難施設」、「自分の家にはどのような危険があるかを知るジオラマを使った防災教育」、「全国の専門家から注目される自主防災先進地の避難チェックシート」などを紹介する。

これらの取り組みを参考に、今私たちが命を守るために何ができるのか。専門家も交えてヒントを探る。

(ゲスト)



エディオン女子陸上部コーチ、
元オリンピック陸上女子
100mハードル日本代表選手
木村文子(きむら あやこ)さん
(広島市安佐北区出身)



広島大学防災・減災研究センター
海堀正博(かいぼり まさひろ)センター長

for the future
CONNECT
コネクト

福山・城下町を“ブラフミエ”

7月15日（金）総合 後7：30～7：55 <広島県向け>

今年、築城400年を迎える福山城！『令和の大普請』として天守の耐震化や外壁の塗り直しが進み、8月末のリニューアル・オープンにむけて準備が着々と進んでいる。初代藩主・水野勝成によって築城され“西国鎮衛”という西日本の見張り番として大きな役割を担う城だった。

その城下町を、高校時代、福山で過ごした小野文恵アナウンサーが“ブラフミエ”。まずは今回復元された、全国唯一と言われる天守閣北面の「鉄板張り」のミステリー解明に挑む。「なぜ北面だけなのか？」建築学者である広島大学名誉教授・三浦正幸さん（大河ドラマ「鎌倉殿の13人」建築考証担当）の案内で歩くと、浮き彫りになってくるのはかつてあった城堀との密接な関係という説。さらに「誰が鉄板を作ったのか」の謎、その解明のヒントを鞆の浦に求めていく。

一方で、町を歩けば意外なところに江戸時代の痕跡が発見できる。そこから見えてくるのは、綿など福山の特産品が全国に流通するようになった理由だったりする。

福山が「もの作りの町」となった原点は江戸にあり！？

城下町を練り歩くことで、現代と400年前をコネクトする。





大竹しのぶの“スピーカーズコーナー” in 広島

8月3日(水)・10日(水) ラジオ第1 後9:05~9:55 <全国放送>
「らじるらじる」によるネット同時配信、聴き逃し(1週間)あり

俳優・歌手の大竹しのぶが、日々の暮らしや仕事の中で感じたこと、いま世界で起きていることなどを見つめ、独自の感性で語るトークと音楽の番組「大竹しのぶの“スピーカーズコーナー”」。

7月7日(木)に広島で行われる公開収録の様様を、2週にわたってお届けする。会場は、NHK 広島放送局1階のメディア・プラザ。

この番組は、2020年11月からレギュラー放送をスタート。

大竹しのぶの飾らないトークが好評で、高齢層はもとより10代からのメールも増えている。番組で人気のコーナーが、バーチャル旅企画「行った気になる! MoSo (妄想) トラベル」。NHK 地方局のアナウンサーやキャスターと電話で結び、その県の見どころや人気の郷土料理、方言などについて楽しくやりとりしている。コロナ禍で旅行が出来なかった間、日本各地の魅力を忘れずに感じていたいと続けてきた企画で、これまでに30を越える県に「妄想トラベル」している。

今回は、そのスペシャル版として、広島での公開収録が実現。事前に寄せられたメッセージ・エピソードをもとに観覧者と盛り上がり、今年1月の「行った気になる! MoSo (妄想) トラベル」に電話で参加した広島放送局・岡崎太希アナウンサーとの初リアル対面トークを楽しんだり、歌を披露したり・・・。

公開収録でリスナーと直接交流することは、大竹しのぶ長年の悲願。

普段よりもさらにテンション高く盛り上がる“スピーカーズコーナー”をお楽しみに。